

令和7年度全建賞 推 薦 調 書  
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

|                   |                                                                                                                                                                   |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施機関名(主事業の実施機関名)  | 国土交通省北海道開発局札幌開発建設部江別河川事務所                                                                                                                                         |
| ふ り が な           | いしかりがわかりゆうしぜんさいせいじぎょう(ほろむいちく)                                                                                                                                     |
| 1. 事業(施策)の名称      | 石狩川下流自然再生事業(幌向地区)                                                                                                                                                 |
| 2. 事業(施策)実施期間(和暦) | 平成27年 4月 1日 ~ 令和 7年 3月31日                                                                                                                                         |
| 3. 事業費(工事費)       | 105 百万円                                                                                                                                                           |
| 4. キーワード          | 湿地帯の復元・再生、地域連携・協働                                                                                                                                                 |
| 5. 事業概要           | <p>本事業は、夕張川の治水事業や周辺の農地開発の進展とともに幌向原野の湿原面積が減少し、焼失の危機に有った湿地環境等の復元・再生事業である。再生に向けては、河川空間に湿地環境を創出した後に、専門家や地域団体、自治体等と連携し、湿生植物等を移植するとともに湿原再生を通じて観光振興・地域の活性化にも取り組んでいる。</p> |

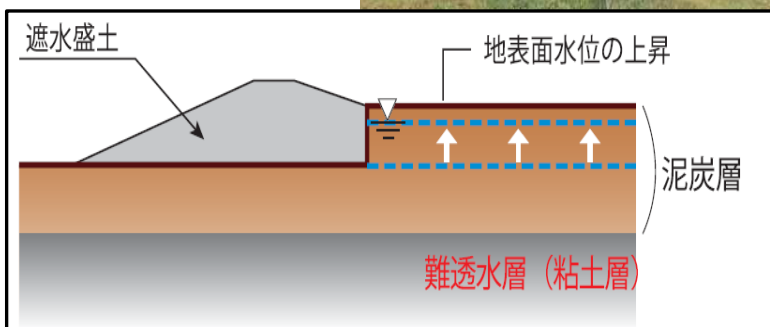
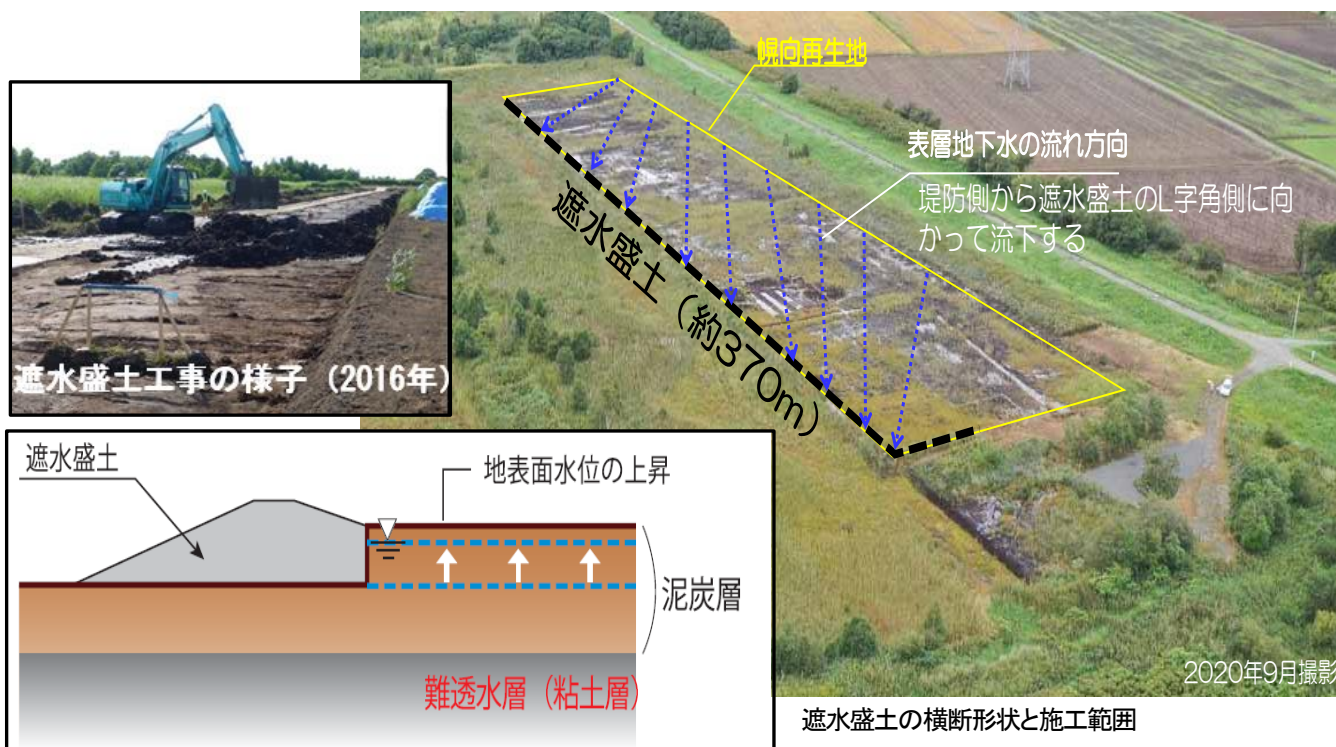
| 6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」 |                                                                                                                                       |                                                                                         |
|------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| ハード or ソフトの分類<br>:該当する方に○印   | ① ハード面 に秀でた事業                                                                                                                         | ② ソフト面 に秀でた取組                                                                           |
| アピールする<br>1)「手段」             | (d)遮水盛土の実施(湿原環境の創出)<br>(d)湿生植物の生育手法開発                                                                                                 | (a)住民を対象としたワークショップ開催<br>(b)学識者、自治体、地域団体等との協働による湿地生植物の育苗、移植実施                            |
| アピールする<br>2)「秀でた成果」          | (a)湿地生植物の定着種数の増加<br>0 種類 → 約 190 種類に増加<br>(a)湿性植物生育面積の増加<br>0m <sup>2</sup> → 約 11,500m <sup>2</sup> に増加<br>(i)消失しつつある地域を特徴づける湿生植物の保全 | (a)事業目的である湿原再生と地域社会への貢献<br>(f)幌向再生地を訪れる人数・イベント増加によるにぎわい創出<br>(g)沿川小学校による環境学習の実施、活動仲間の増加 |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7. 特にアピールしたい点                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <p>本事業では、専門家に指導・助言を受けながら整備した遮水盛土により一定の地下水位が確保され1万 m<sup>2</sup> を超える面積の湿地環境が創出された。この湿地環境に地域関係団体等による活動仲間の勧誘など、多様な関係者が協力し、約 8,000 本の湿地生植物の導入作業を行った。現在では、創出された湿地環境を活用した環境学習会や各種イベント等が開催され利用者が年々増加傾向にあり、さらなる地域振興が期待されている。また、地域の関係組織を構成員とした「ほろむい七草の会」を設立し、これまでの官民連携から地域主導・ステークホルダー連携への移行により、事業完了後の連携体制を構築させ保全活動の継続を図った。</p> |

## 8. 事業を代表する写真及びキャプション



● 湿原 ● 樹林 — 夕張川  
幌向原野における湿原面積の変遷



掘削等により裸地化していた高水敷(平成 23 年撮影)



湿地環境が創出された幌向再生地(令和 7 年撮影)



## 9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

幌向地区自然再生は、湿原環境の再生(ハード面)と地域社会への貢献(ソフト面:地域社会の学びの場の形成、自然と共生する地域社会の形成)を目的とする事業である。以下、ハード面・ソフト面の事業内容を示す。

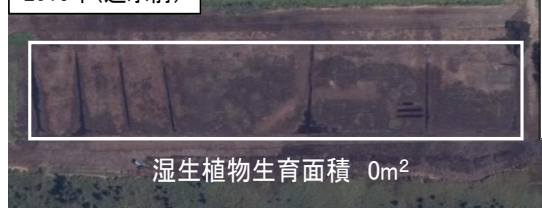
【分類】①ハード面、【手段】(d)遮水盛土の実施

【成果】(a)湿地生植物の定着種数の増加 (a)湿性植物生育面積の増加

夕張川の高水敷に湿生植物であるミズゴケ属が定着しやすい環境を整えるため、「遮水整備による導入基盤の形成」を行った。湿原環境を創出するには、高水敷の表層地下水位を高く保つ必要がある。そのため、表層地下水位の流れを分析し、治水安全度を確保しつつ、高水敷がバスタブ状になるように遮水盛土を整備した。この遮水整備と地域協働による湿生植物の育苗・導入作業により、事業開始前の0m<sup>2</sup>であった湿生植物面積は、約11,500m<sup>2</sup>に増加した。また、ヤチヤナギ、ワタスゲ、ホロムイスゲ等の導入した湿生植物の定着種数は約190種類に増加し、生育面積も拡大した。

2014年 「石狩川下流幌向地区自然再生実施計画書」策定

2016年(遮水前)

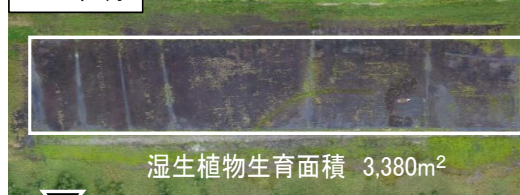


泥炭採取後の裸地であり、湿生植物は生育していない。

湿生植物生育面積 0m<sup>2</sup>

2016年 湿原環境創出のための遮水整備実施

2017年8月



遮水整備後、オオイヌノハナヒゲ等の湿生植物が定着しはじめている。

湿生植物生育面積 3,380m<sup>2</sup>

2017年 湿生植物の導入開始

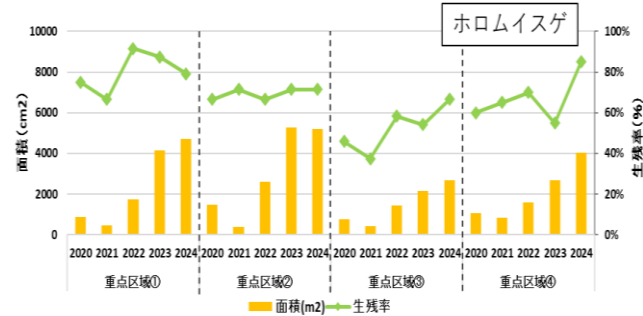
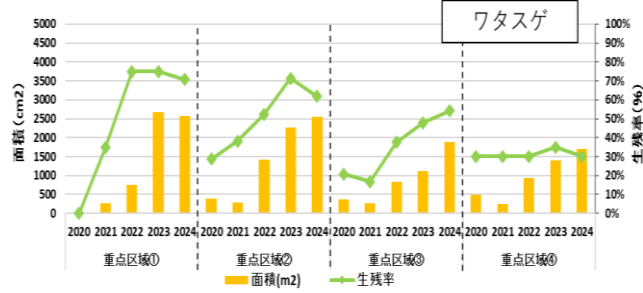
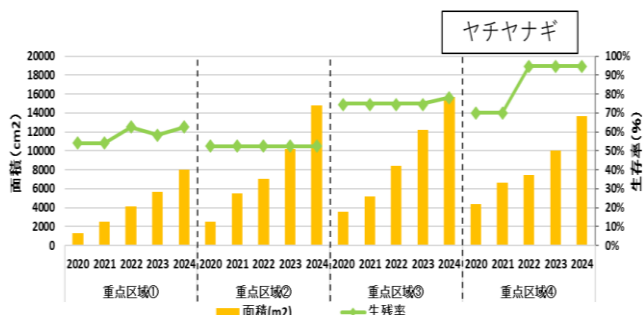
2023年8月



オオイヌノハナヒゲ等の拡大に加え、ヤチヤナギ等の湿生植物が定着しつつある。

湿生植物生育面積 約11,500m<sup>2</sup>

湿生植物面積の変化



導入した湿生植物の定着・成長状況



ヤチヤナギ



ワタスゲ



ホロムイスゲ

## 9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P I の方法 等)〕

【分類】①ハード面、【手段】(d)湿生植物生育手法開発

【成果】(i)地域を特徴づける湿生植物の保全

目標とする湿原の構成種には、先駆的に定着しにくい種や、育苗や増殖に関する知見が少なく研究開発が必要な種が含まれる。このため、成長が早く乾燥に耐える種を先に導入するなど、順応的管理の原則に従い、植生の定着状況を確認しながら段階的に導入を進めた。これらの育苗管理や研究開発は、専門家の協力を得て実施し、地域活動団体や地域住民と協働して湿生植物の導入作業や外来種駆除などの必要な管理作業も行った。導入作業は平成 29 年度より継続して実施し、これまでに約 8,000 株を導入している。



湿生植物の種子採取



地域住民による採取した種子の育苗



【分類】②ソフト面、【手段】(a)住民を対象としたワークショップ開催

【成果】(a)湿原再生と地域社会への貢献

幌向地区自然再生は、「自然再生ワークショップ(WS)」において事業の方向性を協議し、「活用ミーティング(MT)」において地域を中心に活用方法を検討し、「湿原再生ミーティング(MT)」において専門家を中心に技術的な湿原再生方法を協議する、これらの相互連携により取り組みを推進してきた。令和7年度までにWSを9回、活用MT・湿原再生MTをそれぞれ16回実施し、自然再生の目的である「湿原環境の再生」及び「地域社会への貢献」を実現するための具体的な取組方法について協議・実践してきた。事業完了後もWSのメンバーを主体として「ほろむい七草の会」を設立し、保全活動の継続体制を確立している。

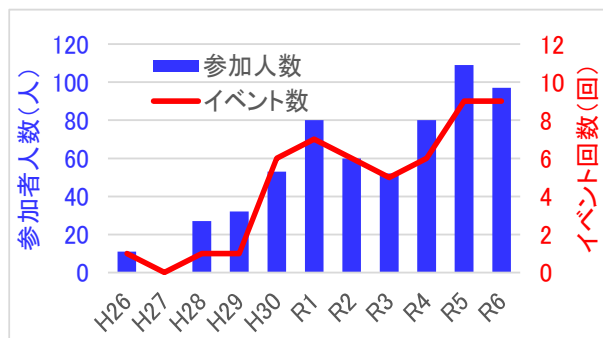


幌向地区自然再生の推進体制

【分類】②ソフト面、【手段】(b)学識者、自治体、地域団体等との協働

【成果】(f)幌向再生地を訪れる人数・イベント増加によるにぎわい創出 (g)環境学習の実施、活動仲間の増加

学識者や地元南幌町、地域をはじめとする多くの関係者との協働により、環境学習や地域活動など、幌向再生地でのイベント回数や参加人数は年々増加傾向にあり、近隣小学校の地域学習や河川堤防のゴミ拾いフットパス、さらに外来種駆除活動などが継続実施され、地域のにぎわい創出に寄与している。



幌向再生に係わるイベント回数・参加人数の推移



「幌向」をテーマとした近隣小学校の地域学習(R4～)



地域団体主催の外来種駆除と堤防のゴミ拾いイベント(R1～)